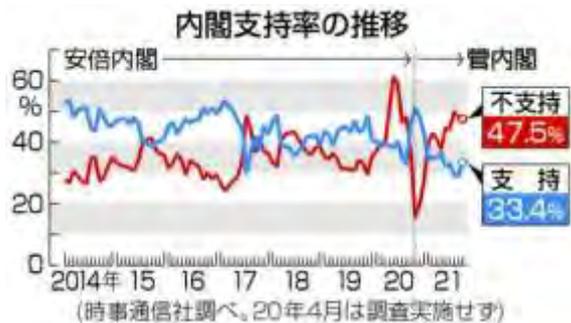


2021年9月20日～16日

世論調査（時事、共同、毎日、ANN、産経・FNN、論評）

「次期総裁」河野氏トップ 衆院選比例投票先、自民49.9% —時事世論調査

時事通信 2021年09月17日17時06分



政党支持率の推移

	9月	8月	7月		9月	8月	7月
自民党	26.5	23.7	21.4	国民民主党	0.0	0.3	0.5
立憲民主党	3.0	3.9	4.5	社民党	0.2	0.2	0.2
公明党	5.0	4.5	2.5	れいわ新選組	0.2	0.2	0.3
日本維新の会	1.7	2.0	2.0	NHK党	0.2	0.0	0.1
共産党	2.2	1.3	1.8	支持なし	59.0	61.4	63.9

時事通信が10～13日に実施した世論調査で、自民党の次期総裁に誰がふさわしいか尋ねたところ、総裁選候補4人のうち河野太郎規制改革担当相が31.6%でトップだった。岸田文雄前政調会長14.3%、高市早苗前総務相7.2%、野田聖子幹事長代行0.9%で、河野氏が他を大きく引き離れた。

調査は自民党の政治家9人から1人を選んでもらう形で実施。自民党支持層で見ても、河野氏35.6%、岸田氏17.9%、高市氏12.1%、野田氏1.2%と同様の傾向だった。

衆院選比例代表の投票先は、自民党が49.9%と最も多く、立憲民主党が10.8%で続いた。以下、公明党6.2%、日本維新の会4.5%、共産党3.7%などの順。「分からない」は22.5%。

◇公明が立民上回る

菅内閣の支持率は前月比4.4ポイント増の33.4%、不支持率は同0.8ポイント減の47.5%だった。不支持率が支持率を上回るのは9カ月連続。

政党支持率は自民党が前月比2.8ポイント増の26.5%で、公明党が同0.5ポイント増の5.0%。立民は同0.9ポイント減の3.0%だった。同党の支持率が公明党を下回るのは、前月に続いて昨年9月の結党以来4度目。

共産党2.2%、日本維新の会1.7%で、社民党、れいわ新選組、「NHKと裁判してる党弁護士法72条違反で」はいずれも0.2%だった。国民民主党は回答がなかった。「支持政党なし」は59.0%。

調査は全国の18歳以上の男女2000人を対象に個別面接方式で実施。有効回収率は64.2%。

ロックダウン「必要」56% コロナ対応、評価せず5割—時事

世論調査

時事通信 2021年09月17日17時05分

時事通信の9月の世論調査で、新型コロナウイルス感染拡大を踏まえ、外出禁止などロックダウン（都市封鎖）を可能にする法整備の必要性について尋ねたところ、「必要だ」は56.5%と半数を超えた。「必要ない」は26.0%だった。

都市封鎖法制化、3候補前向き 自民総裁選

政府の新型コロナ対応については、「評価しない」が前月比5.7ポイント減の49.5%、「評価する」が同5.4ポイント増の31.1%だった。ワクチン接種の進捗（しんちよく）は、「遅い」が61.3%で、「順調だ」の27.1%を大幅に上回った。

調査は10～13日、全国の18歳以上の男女2000人を対象に個別面接方式で実施。有効回収率は64.2%。

河野・岸田氏が接戦 高市氏猛追、野田氏出遅れ—議員支持動向調査・自民総裁選

時事通信 2021年09月20日08時52分



自由民主党本部＝東京・永田町

自民党総裁選について、時事通信は党所属国会議員の支持動向を調査した。それによると、河野太郎規制改革担当相（58）と岸田文雄前政調会長（64）が競り合い、高市早苗前総務相（60）が激しく追っている。出遅れた野田聖子幹事長代行（61）は挽回に懸命。ただ、2割程度が態度を決めておらず、党員・党友票の行方を含め、情勢は流動的だ。

散歩、夫婦げんか、ドラマ、ハグ… 4候補がリラックス法紹介—自民総裁選

竹下亘衆院議員の死去を受け、総裁選は国会議員票と党員・党友票各382票の計764票で実施される。国会議員票の投開票は29日。

調査は13～19日に議員からの聞き取りなどにより実施した。河野、岸田両氏は党所属議員の25%前後の支持を固め、高市氏も約2割の支持を得て2人を猛追し、告示前日に出馬表明した野田氏は約5%にとどまっている。

岸田派を除く6派閥が事実上の自主投票とする中、河野氏は岸田派以外の中堅若手を中心に支持を広げ、所属する麻生派（53人）では約半分の支持を獲得。石破派（17人）の半数以上も固め、二階派（47人）、石原派（10人）、無派閥にも浸透する。岸田氏は自身が率いる岸田派（46人）をまとめ、細田派（96人）、麻生派、無派閥からもベテランや参院議員を中心に支持を取り付けた。

安倍晋三前首相が後押しする高市氏は、安倍氏が影響力を持つ細田派の中堅若手に浸透。麻生派、竹下派（51人）、二階派にも食い込みを図る。野田氏は推薦人20人からの上積みで課題だ。

◇地方幹部は岸田氏

一方、47都道府県連の幹部を対象に時事通信がアンケート調査を実施したところ、岸田氏支持が12人で最多だった。河野氏支持は3人、高市氏支持は2人、野田氏支持はいなかった。ただ、

河野氏の地元神奈川、野田氏の地元岐阜を含む29都府県連が支持候補を回答しなかった。

岸田氏支持は福島、石川、広島、福岡などの幹事長ら。河野氏支持は北海道、青森、鳥取、高市氏支持は滋賀、奈良の幹事長らだった。党員の支持動向も尋ねたところ、支持候補にかかわらず、河野氏優位との回答が目立った。

総裁選を通じた世代交代について聞くと、25府県連が「全面的に」「多少は」を含めて「世代交代を進めるべきだ」と回答。津田健児三重県連幹事長は「若い力で党や国を変えていく必要がある」とした。

ワクチン接種進展後の行動制限緩和「妥当」は49% 世論調査 毎日新聞 2021/9/18 18:17 (最終更新 9/18 21:15)



新型コロナウイルスのワクチン接種＝手塚耕一郎撮影

毎日新聞と社会調査研究センターが18日に実施した全国世論調査で、新型コロナウイルス対応やワクチンの接種についても聞いた。緊急事態宣言発令中の行動制限を、ワクチン接種が進んだ段階で緩和する方針を政府が示したことについては、「妥当だ」との回答が49%で、「緩和すべきではない」の34%を上回った。「もっと早く緩和すべきだ」は9%、「わからない」は7%だった。政府は現在、宣言対象地域では、飲食店に時短営業や酒類提供の停止を要請している。

ワクチンの接種に関しては、「2回受けた」と答えた人は69%で、8月28日の前回調査(59%)から10ポイント伸びた。「1回受けた」は13%(前回13%)、「予約は取れたがまだ受けていない」は7%(同11%)、「予約が取れない」は3%(同7%)だった。「受けるかどうか迷っている」は4%(同5%)、「受けるつもりはない」は5%(同4%)。「2回受けた」と答えた層でも、菅内閣を支持する人は36%にとどまり、ワクチン接種の進捗(しんちよく)は、支持率を押し上げていないようだ。

飲食店に入る際などに見せるワクチン接種を受けた証明書の「ワクチンパスポート」については、「導入した方がいい」は62%で、「導入しない方がいい」の27%を大幅に上回った。「わからない」は10%だった。

海外では、ワクチン接種を義務づける動きもあるが「日本でも義務づけるべきだ」と答えた人は43%で、「義務づけるのは問題だ」の46%と拮抗(きっこう)した。「わからない」は11%だった。日本では接種を強制されないが、義務化を検討するよう求める声もある。【伊藤奈々恵】

総裁誰に 河野氏43%、高市氏15%、岸田氏13% 世論調査 毎日新聞 2021/9/18 16:40 (最終更新 9/18 21:25)



自民党総裁選立候補者討論会を前に記

念撮影に応じる(左から)河野太郎行政改革担当相、岸田文雄前政調会長、高市早苗前総務相、野田聖子幹事長代行＝東京都千代田区の日本記者クラブで2021年9月18日午後1時56分、吉田航太撮影

毎日新聞と社会調査研究センターは18日、全国世論調査を実施した。17日に告示された自民党総裁選(29日投開票)について、誰に総裁になってほしいか尋ねたところ、河野太郎行政改革担当相が43%と最も多く、高市早苗前総務相15%、岸田文雄前政調会長13%、野田聖子幹事長代行6%の順となった。「この中にはいない」は15%、「関心がない」は8%だった。自民党支持層でも河野氏が50%で最多だった。続いて高市氏が25%、岸田氏は14%、野田氏が3%となった。

菅義偉首相が総裁選に立候補せず退陣することについては、「妥当だ」が60%に達し、「首相を続けてほしかった」は15%にとどまった。「どちらとも言えない」は24%だった。自民党支持層でも5割が退陣を「妥当だ」と答えた。

2020年9月に発足した菅政権の1年間を評価するかとの問いでは、「評価する」40%、「評価しない」40%と意見が割れた。「どちらとも言えない」は19%だった。

菅首相は総裁選不出馬の理由について「新型コロナウイルス対策に専念したい」と述べたが、菅政権の新型コロナ対策を「評価する」と答えた人は33%にとどまった。8月28日の前回調査(14%)からは増加したが、「評価しない」の47%(前回70%)を下回った。

菅内閣の支持率は37%で、政権発足以降最低だった前回の26%から11ポイント上昇。不支持率は55%で前回(66%)より11ポイント下がった。

政党支持率は、自民党は37%で、前回(26%)から11ポイント伸びた。その他の政党は、立憲民主党10%(前回10%)▽日本維新の会5%(同8%)▽共産党4%(同5%)▽公明党4%(同3%)▽れいわ新選組2%(同2%)▽国民民主党1%(同1%)——など。「支持政党はない」と答えた無党派層は34%(同42%)だった。

次期衆院選の比例代表で投票したい政党を聞いたところ、自民党35%(前回24%)▽立憲民主党14%(同14%)▽日本維新の会7%(同8%)▽共産党6%(同6%)▽公明党5%(同4%)▽れいわ新選組2%(同2%)▽国民民主党2%(同2%)——などで、「まだ決めていない」は28%(同37%)だった。

調査は、携帯電話のショートメッセージサービス(SMS)機能を使う方式と、固定電話で自動音声の質問に答えてもらう方式を組み合わせ、携帯732件・固定311件の有効回答を得た。【伊藤奈々恵】

眞子さまのご結婚 「祝福したい」38% 否定回答と拮抗 世論調査

毎日新聞 9/18(土) 18:52 配信



眞子さまと小室圭さん＝2017年9月3日

(代表撮影)

毎日新聞と社会調査研究センターが18日に実施した全国世論調査で、秋篠宮家の長女眞子さまが、年内に結婚すると報じられていることについても質問した。「祝福したい」との回答は38%で、「祝福できない」の35%をわずかに上回った。「関心がない」は26%だった。

年代別でみると、40～50代は「祝福したい」と「祝福できない」が拮抗(きっこう)し、60代は「祝福できない」が多かった。眞子さまは2017年9月に、国際基督教大の同級生だった小室圭さんとの婚約が内定したが、その後、小室さんの母親とその元婚約者の金銭トラブルが報じられ、批判が出ていた。【伊藤奈々恵】

総裁選、河野氏が党員支持で優位 共同通信調査、岸田ら3氏が追う

2021/9/18 18:45 (JST)9/18 23:23 (JST)updated 共同通信社



自民党総裁選の公開討論会を前に、ポーズをとる(左から)河野行革相、岸田前政調会長、高市前総務相、野田幹事長代行=18日午後、東京・内幸町の日本記者クラブ(代表撮影)

共同通信社は17、18両日、自民党総裁選に関する全国の党員・党友の支持動向を探った。電話調査に投票資格があると答えた党員・党友に対し、新総裁にふさわしい人を尋ねたところ、河野太郎行政改革担当相が48.6%で最多だった。岸田文雄前政調会長が18.5%、高市早苗前総務相が15.7%で追い、野田聖子幹事長代行は3.3%だった。「まだ決めていない・分からない」の回答は13.9%。

次の首相に期待する課題は、新型コロナ対策が26.8%で最も多く、経済対策24.2%、外交・安全保障19.4%と続いた。固定電話で「自民党員・党友」と答えた1028人の回答を集計した。ANN世論調査「次の総裁」河野氏がトップに

ANN9/20(月)6:16 配信

自民党総裁選挙について次の総裁に河野行政改革担当大臣が良いと答えた人が最も多い48%に上ることがANNの世論調査で分かりました。調査は、この週末に行いました。自民党総裁選に立候補した4人のうち、誰が次の総裁になることが良いかと尋ねたところ、河野行革担当大臣が48%、岸田前政調会長が18%、高市前総務大臣が10%、野田幹事長代行が7%でした。自民党支持層に限ってみると河野氏が53%で過半数に達し、岸田氏が20%、高市氏が13%、野田氏が5%でした。また、新しい総裁に期待する政策については「新型コロナ対策」と答えた人が44%で最も多く、「経済・財政政策」と答えた人が42%で僅差で続き、「年金・社会保障制度」と答えた人が34%でした。次の総理大臣は安倍内閣や菅内閣が行ってきた政権運営の手法を、「続ける方が良い」と答えた人は19%にとどまり、「変える必要がある」と答えた人が67%にのびました。一方、菅内閣の支持率は29.4%で、先月の調査から3.6ポイント

上昇しましたが、3カ月連続で3割を切りました。テレビ朝日

ANN POLL 世論調査 2021年9月調査

【調査日】 2021年9月18・19日(土・日曜日)

【調査方法】 電話調査(RDD方式)

【対象】 全国18歳以上の男女1911人

【有効回答率】 55.5%

内閣支持率

あなたは、菅義偉連立内閣を支持しますか、支持しませんか?

支持する 29.4%前回比+3.6

支持しない 49.6%前回比+0.9

わからない、答えない 21.0%前回比-4.5

支持する理由は何ですか?次の6つから1つを選んで下さい。

菅総理の人柄が信頼できるから 28.6% +9.8

支持する政党の内閣だから 16.1% -7.5

政策に期待が持てるから 11.5% +6.6

大臣の顔ぶれが良いから 0.5% -1.0

他の内閣より良さそうだから 27.3% -5.4

その他 15.0% -1.0

わからない、答えない 1.0% -1.5

支持しない理由は何ですか?次の6つから1つを選んで下さい。

菅総理の人柄が信頼できないから 13.5% -1.2

支持する政党の内閣でないから 6.3% +2.9

政策に期待が持てないから 46.8% -13.4

大臣の顔ぶれが良くないから 5.2% -2.2

他の内閣の方が良さそうだから 9.8% +7.7

その他 13.2% +4.0

わからない、答えない 5.2% +3.0

政党支持率

政党 支持率 前回比

自民党 49.4% +2.8

立憲民主党 9.9 +1.8

公明党 4.2 +1.3

日本維新の会 3.1 +0.5

日本共産党 4.1 ±0

国民民主党 1.2 +0.7

社民党 0.3 -0.2

れいわ新選組 0.4 +0.2

NHK… 0 -0.1

その他 0.7 -0.1

支持なし・わからない・答えない 26.7 -6.9

政府の新型コロナ対策

あなたは、政府が行っている新型コロナウイルス対策について、評価しますか、評価しませんか?

評価する 41% +18

評価しない 43% -18

わからない、答えない 16% ±0

緊急事態宣言

菅内閣は、19都道府県の緊急事態宣言の期限を、9月12日から9月30日まで延長しました。あなたは、30日で解除して良いと

思いますか、延長した方が良いと思いますか？

- 解除して良い 39%
- 延長した方が良い 41%
- わからない、答えない 20%

医療提供体制

あなたは、新型コロナウイルスに感染した場合に、十分な医療を受けられると感じていますか、感じていませんか？

- 感じている 22% +8
- 感じていない 66% -15
- わからない、答えない 12% ±0

行動制限の緩和

希望者へのワクチン接種が終わる 11 月頃から、緊急事態宣言が出ている地域でも、ワクチン接種を終えた証明書などがある人は、飲食、イベント、旅行などの行動制限を緩めることが検討されています。あなたは、これに賛成ですか、反対ですか？

- 賛成 52%
- 反対 35%
- わからない、答えない 13%

菅内閣の評価

あなたは、菅内閣のこの 1 年間の仕事ぶりについて、評価しますか、評価しませんか？次の 4 つから 1 つを選んで下さい。

- 大いに評価する 6%
- ある程度評価する 49%
- あまり評価しない 33%
- まったく評価しない 12%
- わからない、答えない 0%

衆院選の比例代表投票先

あなたは、いま衆議院選挙で投票するとしたら、比例代表選挙では、どの政党に投票しますか？ご自由に挙げて下さい。

- 自民党 42.3% +9.5
- 立憲民主党 9.5% +0.8
- 公明党 3.9% +0.7
- 日本維新の会 2.7% -0.1
- 共産党 4.1% +0.2
- 国民民主党 1.3% +0.3
- 社民党 0.1% -0.1
- れいわ新選組 0.1% -0.5
- NHK と裁判してる党弁護士法 7 2 条違反で 0% -0.1
- その他の政党 0.4% -0.4
- 投票しない 2.9% -0.7
- わからない、答えない 32.7% -10.4

衆院選での与野党の議席

あなたは、次の衆議院選挙で、自民党、公明党の与党と、立憲民主党などの野党とでは、どちらの議席が増えた方が良いと思いますか？

- 与党の議席が増えた方が良い 45%
- 野党の議席が増えた方が良い 35%
- わからない、答えない 20%

次の自民党総裁

自民党総裁選挙に立候補した次の 4 人のうち、誰が次の総裁になることが良いと思いますか？1 人を挙げて下さい。

- 岸田文雄 (きしだふみお) 18%
- 河野太郎 (こうのたろう) 48%
- 高市早苗 (たかいちさなえ) 10%
- 野田聖子 (のだせいこ) 7%
- わからない、答えない 17%

新総裁に期待する政策

あなたが、新しい総裁に、期待する政策は何ですか？次の 9 つから 2 つまで挙げて下さい。(1 つでも可)

- 外交・安全保障 22%
- 教育・子育て支援 25%
- 経済・財政政策 42%
- 原発・エネルギー政策 10%
- 憲法改正 3%
- ジェンダー・多様性 2%
- 新型コロナ対策 44%
- 年金・社会保障制度 34%
- その他 0%
- わからない、答えない 3%

安倍政権・菅政権の継承

あなたは、次の内閣総理大臣は、安倍内閣や菅内閣が行ってきた政権運営の手法を、続ける方が良いと思いますか、それとも変える必要があると思いますか？

- 続ける方が良い 19%
- 変える必要がある 67%
- わからない、答えない 14%

コロナ対策、評価改善も退陣は妥当

産経新聞 2021/9/20 15:23 千葉 倫之

産経新聞社と FNN (フジニュースネットワーク) が 18、19 両日に実施した合同世論調査では、菅義偉 (すが・よしひで) 首相が自民党総裁選に出馬しない判断について、78.9%が「妥当だ」と答えた。一方で、内閣支持率や政府の新型コロナウイルス対策に関する評価は、大きく改善に転じている。菅政権の実績を肯定的に評価する回答も 6 割を超えており、ようやくムードが上向きかけたところで、首相は退陣を迎えることになる。

政府のコロナ対策を「評価する」は 42.5%で、前回と比べて 20 ポイント近く上昇。今年の 2 月調査 (44.6%)、3 月調査 (42.5%) 並みの水準まで回復した。特に高齢層の評価改善が顕著で、70 歳以上は前回比 28.0 ポイント増の 50.4%が「評価する」と回答し、現行の調査を開始した 1 月以降で初めて 5 割を超えた。

感染状況の改善に加え、ワクチン接種の進展が評価の改善につながったとみられる。接種が「順調に進んでいる」との回答は 55.3% (前回比 26.0 ポイント増) で、「順調に進んでいない」の 41.3% (同 26.2 ポイント減) を大きく上回った。30 代の 63.9%をはじめ、全ての年代で「順調に進んでいる」が 5 割を上回った。

8 月の前回調査では、ワクチン接種が進めば感染が収束すると思うかとの設問に対して「思わない」との回答が 64.6%を占め、先行きに悲観的な見方が強かった。

ただ、感染状況の改善でムードは変わりつつある。今回の調査で

は、政府が検討する11月ごろの行動制限緩和について賛成が6割近くに迫って反対を大きく上回り、社会経済活動の再開への期待をうかがわせた。政府のコロナ対策を評価しない層に限っても、行動制限の緩和には49.6%が賛成した。

菅内閣の実績について「大いに評価する」「多少は評価する」との回答を合わせると62.5%に達した。自民党支持層に限定すれば78.7%で、無党派層でも53.2%が肯定的に評価した。年代別では40代(68.7%)や18~29歳(67.4%)で肯定的な評価の比率が高かった。

(千葉倫之)

退陣効果？ 自民支持率、比例投票先共にアップ

産経新聞 2021/9/20 14:48

産経新聞社とFNN(フジニュースネットワーク)が18、19両日に実施した合同世論調査で、自民党の支持率は前回調査(8月21、22両日実施)より10.0ポイント増の43.5%だった。次期衆院選の比例代表の投票先も、自民は9.3ポイント増の44.9%。ワクチン接種の遅れなどから新型コロナウイルス対策に批判が集まっていた菅義偉(すがよしひで)首相が退陣を表明したことが好感したとみられる。

自民の支持率は今年1月以降で最も高かった3月の40.1%を上回った。「支持政党はない」との回答は前回比10.1ポイント減の34.5%。前回調査で支持政党はないとする無党派層の一部が、今回は自民支持に回ったようだ。野党第一党の立憲民主党を支持するとの回答は0.3ポイント増の6.9%ではほぼ横ばいだった。

比例代表の投票先でも自民は今年5月以降で最多。立民は0.4ポイント減の9.4%だった。支持政党を問う質問で「支持政党はない」と回答した無党派層の次期衆院選の比例代表投票先も自民が最も多く15.2%。立民は1.2ポイント減の6.8%、共産党は0.9ポイント減の1.2%、国民民主党は0.9ポイント減の0.3%で、前回調査では野党に投票しようとしていた無党派層が自民に乗り換えたとみられる。

ブースター、4割が希望 行動制限緩和は賛成過半数

産経新聞 2021/9/20 12:58

産経新聞社とFNN(フジニュースネットワーク)が18、19両日に実施した合同世論調査で、新型コロナウイルスワクチンの「ブースター」と呼ばれる3回目接種について聞いたところ、「受けたい」との回答が43.1%に上った。「必要に迫られれば受ける」との回答も39.9%で、感染力の強い変異株の出現で、3回目の接種への期待は高いようだ。「接種を受けたくない」は10.7%、「2回の接種も受けたくない」は4.4%だった。

男女別、年代別にみると、3回目の「接種を受けたい」との回答は男性50代以上と女性60代で半数を超えた。一方、「接種を受けたくない」との回答は男性は10・20代が最も多く23.1%、女性は40代の13.1%だった。

政府が新型コロナワクチン接種の進展を見据え、飲食店の利用やイベントなどの行動制限の緩和については「賛成」が58.8%で、「反対」が35.7%だった。男女別、年代別にみると、男性は10・20代と現役世代の40代、50代で「賛成」が6割

を超えた。「反対」が唯一半数を超えたのは女性30代の59.8%。新型コロナの感染が子供にも広がる中、幼い子供を抱える母親らが警戒しているようだ。

一方、ワクチン接種の進み具合については、「順調に進んでいる」との回答が55.3%で5割を超えた。「順調に進んでいない」は41.3%。ワクチンを2回打ち終えた国民の割合が5割を超え、高齢者の9割近くが2回接種を終えたことが好感したとみられる。

次の総裁、河野氏トップ 内閣支持率5カ月ぶり回復

産経新聞 2021/9/20 11:39

産経新聞社とFNN(フジニュースネットワーク)は18、19両日に合同世論調査を実施した。菅義偉(すがよしひで)首相の後任を選ぶ自民党の総裁選に立候補した4人のうち誰が新総裁にふさわしいかを聞いたところ、河野太郎ワクチン担当相が52.6%で最も多かった。岸田文雄前政調会長が15.2%で続き、高市早苗前総務相は11.6%、野田聖子幹事長代行は6.4%だった。

次期首相に最も必要な資質については、リーダーシップが35.4%と最多で、政策20.2%、説明能力19.5%、実績9.1%、国際感覚8.5%、人柄5.9%と続いた。

次期首相に最も期待する政策(複数回答)に関しては、新型コロナ対策が59.2%でトップ。景気や雇用40.2%、年金・医療・介護27.8%、子育て支援・教育19.3%、外交・安全保障18.1%、行政改革・財政再建15.2%、環境・エネルギー政策7.0%、憲法改正5.8%の順だった。

一方、首相が、自民総裁選に立候補せず退陣を表明したことに關しては「妥当だと思う」が78.9%、「妥当だと思わない」が15.8%だった。

菅内閣の約1年間の実績を評価するかどうかは「評価する」が62.5%、「評価しない」が36.2%だった。

5月以降下落を続けていた菅内閣の支持率は10.2ポイント増の42.3%で、不支持率は9.1ポイント減の52.2%だった。支持率が回復するのか5カ月ぶり。

ワクチンの2回接種が国民の5割に達したことなどから新型コロナ対策は「評価する」が19.8ポイント増の42.5%と上昇に転じた。「評価しない」は21.7ポイント減の48.7%だった。

調査では内閣支持率に關し回答が不明確な場合に、「どちらかといえば」と再度質問して回答を得た。

FNN 世論調査 河野氏が新総裁に52%

FNN2021年9月20日 月曜 午前11:42

4人の候補が争っている、自民党総裁選挙。

FNNがこの週末実施した世論調査では、新しい総裁にふさわしい人として、河野規制改革相と答えた人が、半数を超えた。

調査は、9月18日・19日に、全国18歳以上の男女1,116人を対象に、電話(RDD 固定+携帯)で行った。

自民党の新しい総裁にふさわしい人を聞いたところ、河野規制改革相が52.6%と最も多く、続いて、岸田前政調会長が15.2%、高市前総務相が11.6%、野田幹事長代行が6.4%だった。

新しい首相に求める資質を聞くと、リーダーシップが35.4%、政策が20.2%、説明能力が19.5%だった。

さらに、期待する政策を2つ選んでもらうと、最も多いのは、新型コロナウイルス対策で59.2%、続いて景気や雇用40.2%、年金・医療・介護27.8%となった。

一方、菅首相が退陣を表明したことについて、妥当だと思う人は78.9%、思わない人は15.8%。

菅内閣を「支持する」人は、8月より10ポイント近く増えて42.3%。

「支持しない」人は、52.2%だった。

政府の新型コロナウイルス対策を評価する人は、8月より、20ポイント近く増えて42.5%、評価しない人は48.7%。

ワクチンの接種が順調に進んでいると答えた人は、26ポイント増えて55.3%、順調に進んでいないと答えた人は41.3%だった。

また、ワクチンの3回目の接種を受けたい人は43.1%、必要に迫られれば受ける人は39.9%だった。

ワクチンの接種証明などによる行動制限の緩和については、賛成が58.8%、反対が35.7%だった。

政党別の支持率は、自民党が43.5%、立憲民主党が6.9%などとなっている。

FNN 世論調査 河野氏人気で総裁選は?

FNN2021年9月20日月曜 午後0:08

4人の候補が争っている、自民党総裁選挙。

FNNがこの週末実施した世論調査では、新しい総裁にふさわしい人として、河野規制改革相と答えた人が、半数を超えた。

フジテレビ政治部の三嶋唯久編集委員に話を聞いた。

島田彩夏キャスター「FNN世論調査では、自民党総裁選で、河野太郎氏に総裁になってほしい人が、半数を超えていますね」

フジテレビ政治部・三嶋唯久編集委員「河野氏が総裁になってほしい人は52%と、ほかの3人を大きくリードしています。これを自民党を支持する人に限って見ると、河野氏になってほしい人は55%とさらに多く、自民支持層の中でも支持が広がっていることがわかります。また年代別で見ても、若年層から高齢者まで、いずれの年代でも河野氏が優位に立っています。さらに、総理に求める資質として、『リーダーシップ』を挙げた人が最も多かったのですが、その人の中で、河野氏を支持する人が6割を超え、河野氏の政治手腕に期待が集まっていることがうかがえます」

島田キャスター「こうした河野氏の人気は、総裁選にどのように影響するのでしょうか?」

フジテレビ政治部・三嶋編集委員「総裁選は、国会議員票382票、全国の党員・党友による投票382票のあわせて764票で争われます。世論調査のように、河野氏が党員票で半数前後を取ったとしても、国会議員票は4人の混戦状況で、過半数に届かない場合は、決選投票となります。決選投票となった場合、国会議員票の割合が大きくなるため、投票の結果は予断を許しません。今後、各陣営は、さらなる票の上積みを目指して激しく動くものとみられます」

FNN・産経合同世論調査 「新総裁にふさわしい」河野氏52.6%、岸田氏15.2%が続く



FNN・産経合同世論調査【2021年9月】

調査期間：2021年9月18日(土)～19日(日)

FNN2021年9月20日月曜 午前11:40

問1 菅内閣を支持するか、支持しないか。

- 1.支持する 42.3% 前回(8/21、22)比+11.2ポイント
- 2.支持しない 52.2% -9.1
- 3.わからない・言えない 5.5% -1.1

問2 どの政党を支持するか。

- 1.自民党 43.5% +10.0
- 2.立憲民主党 6.9% +0.3
- 3.公明党 3.2% -0.3
- 4.共産党 2.1% -0.3
- 5.日本維新の会 1.6% -1.4
- 6.国民民主党 0.3% -0.3
- 7.社民党 0.3% -0.1
- 8.れいわ新選組 0.7% ±0
- 9.NHKと裁判してる党弁護士法72条違反で 0.0% -0.3
- 10.その他の政党 0.4% +0.2
- 11.支持政党はない 34.5% -10.1
- 12.わからない・言えない 6.5% +2.3

問3 政府の新型コロナウイルス対策を評価するか、評価しないか。

- 1.評価する 42.5% +19.8
- 2.評価しない 48.7% -21.7
- 3.わからない・言えない 8.9% +2.0

問4 政府は、19都道府県の緊急事態宣言、8県のまん延防止等重点措置を9月30日まで延長した。この措置が、感染拡大の防止にどの程度効果があると思うか。

- 1.非常に効果がある 3.6%
- 2.ある程度効果がある 54.3%
- 3.あまり効果はない 35.2%
- 4.まったく効果はない 5.6%
- 5.わからない・言えない 1.2%

問5 政府による新型コロナウイルスワクチンの接種の進み具合をどう思うか。

- 1.順調に進んでいる 55.3% +26.3
- 2.順調に進んでいない 41.3% -26.2
- 3.わからない・言えない 3.4% +0.2

問6 政府は、新型コロナウイルスワクチンの2回の接種が終わった人に、3回目の接種を行うことを検討している。3回目の接種を受けたいか。

- 1.3回目の接種を受けたい 43.1%
- 2.必要に迫られれば受ける 39.9%
- 3.3回目の接種を受けたくない 10.7%
- 4.2回の接種も受けない 4.4%
- 5.わからない・言えない 1.9%

問7 政府は、11月頃をめどに、ワクチンの接種証明などがあれば、飲食店やイベント、旅行などの行動制限の緩和を行う案を出した。行動制限の緩和に賛成か、反対か。

- 1.賛成 58.8%
- 2.反対 35.7%
- 3.わからない・言えない 5.5%

問8 菅首相は、自民党の総裁選挙に立候補しないとして退陣を表明した。この菅首相の判断を妥当だと思うか。

- 1.妥当だと思う 78.9%
- 2.妥当だと思わない 15.8%
- 3.わからない・言えない 5.4%

問9 菅内閣の約1年間の実績を評価するか、評価しないか。

- 1.大いに評価する 12.0%
- 2.多少は評価する 50.5%
- 3.あまり評価しない 26.6%
- 4.まったく評価しない 9.6%
- 5.わからない・言えない 1.3%

問10 菅首相の後任を選ぶ自民党の総裁選挙に、4人が立候補した。4人のうち、誰が新しい総裁にふさわしいと思うか。

- 1.河野太郎 52.6%
- 2.岸田文雄 15.2%
- 3.高市早苗 11.6%
- 4.野田聖子 6.4%
- 5.わからない・言えない 14.2%

問11 自民党総裁選で新しく選ばれた総裁は、首相に就任する。新しい首相に最も求める資質は何か。

- 1.政策 20.2%
- 2.実績 9.1%
- 3.リーダーシップ 35.4%
- 4.説明能力 19.5%
- 5.人柄 5.9%
- 6.国際感覚 8.5%
- 7.わからない・言えない 1.5%

問12 新しい首相に最も期待する政策は何か。(選択肢から2つ選択)

- 1.新型コロナウイルス対策 59.2%
- 2.景気や雇用 40.2%
- 3.年金・医療・介護 27.8%
- 4.行政改革・財政再建 15.2%
- 5.外交・安全保障 18.1%
- 6.子育て支援・教育 19.3%
- 7.環境・エネルギー政策 7.0%
- 8.憲法改正 5.8%
- 9.それ以外 1.0%
- 10.わからない・言えない 1.5%

問13 衆議院選挙の比例代表で、どの政党に投票しようと思うか。

- 1.自民党 44.9% +9.3
- 2.立憲民主党 9.4% -0.4
- 3.公明党 3.4% -0.7
- 4.共産党 2.7% -1.0
- 5.日本維新の会 3.1% -1.5

- 6.国民民主党 0.6% -0.6
- 7.社民党 0.2% -0.2
- 8.れいわ新選組 0.5% -0.2
- 9.NHKと裁判してる党弁護士法72条違反で 0.1% -0.4
- 10.その他の政党 1.2% -0.5
- 11.投票には行かない 3.1% +0.3
- 12.わからない・言えない 30.9% -4.1

※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない

FNN・産経合同世論調査【2021年9月】

RDD(固定・携帯電話)

全国の18歳以上の有権者1,116人

期間:2021年9月18日・19日

世論調査軽視、短命の一因か 新政権が菅政権から学ぶべき教訓(米重克洋)

選挙ドットコム 9/16(木) 11:55 配信



世論調査軽視、短命の一因か 新政権が菅政権から学ぶべき教訓(米重克洋)

振り返ってみれば、菅義偉内閣は歴史的に高い水準の支持率とともに始まった。昨年9月の発足直後に報道各社が行った調査を見ると、朝日新聞では支持率が65%、日本経済新聞では74%などと、歴史的に見ても高い水準だった。また、自民党の支持率は5割前後に達した社もあった。

	支持率	不支持率
朝日新聞	65%	13%
読売新聞	74%	14%
日本経済新聞	74%	17%
NHK	62%	13%

表:菅政権発足時の報道各社の内閣支持率(2020年9月)

この時は、菅氏にとって絶好の解散機会でもあった。既に任期満了まで1年となっていたため、与党内では「菅新首相」が高支持率の勢いを活かして衆院解散に踏み切れることを公然と希望する声もあった。しかし、菅氏はこの時、「折角総裁に就任したので、仕事をしたい」として、早期の衆院解散を見送った。歴史にifはないが、もしこの時仮に菅氏が解散総選挙に臨んでいけば、高支持率を背景に自公で3分の2に近い議席を改めて確保することで、より「仕事」をすることができただろう。

衆院選が昨秋に終わっていれば、次の大型国政選挙は2022年の参院選まで間があった。この間コロナ対応で大きく内閣支持率を落としていても、議員同士の党内力学だけで今秋の総裁選を乗り切り、参院選前にワクチンの普及やそれに伴う行動制限緩和などの恩恵を演出し、自身の指導力を国民世論に訴えるーといったシナリオも描けたはずだ。菅氏は折角のロケットスタートを活かせず、支持率の急速な下落とともに政権を維持するエネルギーを喪ったわけだ。では、一体当初の高支持率はどこから来たのだ

ろうか。

菅政権発足時の世論調査を振り返ると

当時の各社調査の内訳を見ると、いくつかのヒントが見えてくる。そのひとつが、無党派からの内閣支持率の高さことだ。上記で紹介した20年9月の朝日新聞の調査の内訳をより詳しく見てみると、「支持する政党はない」としたいいわゆる無党派層の実に51%が菅内閣を支持すると回答していた。また、自民党支持層に占める内閣支持率も高かった。同じ調査で、自民党支持層の87%が菅内閣を支持すると答えていた。「自民党の内閣なのだから、自民党支持層が支持するのは当たり前だろう」と思われるかもしれないが、実はそうではない。今年8月、末期の菅内閣の自民党支持層に占める支持率は57%にとどまっていた。無党派層に至っては、14%と3分の1未満に激減していた。

つまり、菅氏は安倍政権から引き継いだ与党のぶ厚い支持基盤に加えて、無党派層を中心とした新政権への弱い「期待感」の上乗せにより高支持率を獲得したと言えそうだ。ところが、菅政権は発足直後から日本学術会議での学者任命拒否などに政治的なエネルギーを費消する一方、コロナ対応では感染者数が増加局面にあってもなおGoToトラベルの停止に踏み込まず、緊急事態宣言発出などの対応も知事の突き上げを受けて「波」のピークに差し掛かってから出すなど、後手後手と批判される対応に終始した。菅内閣においては、感染拡大防止か、経済活動かといった二者択一的な議論が絶えなかった。だが、各社の世論調査では、まず感染拡大防止を最重視する意見が一貫して優勢だった。かなり遅い段階まで様子を見ては、知事の動きに突き上げられる格好で宣言に追い込まれる構図は、結果として東京や大阪など地方の知事への世論の「評価」を相対的に上げる材料にすんなったようにも見える。今思えば、新型コロナの感染状況を制御することの難しさや、その後の感染者数、病床利用率等の予測可能性の低さも、これまた保守的に見通していれば政権発足直後に解散しておくという判断に至っただろう。コロナにおいても世論の動向においても、一貫してデータを軽視した希望的観測に基づく判断を積み重ねた結果、最初から最後まで苦しんだように見える。

安倍政権の発信と世論調査

対比して、安倍政権が長期政権となった背景に、恐らく首相かその周辺が世論調査をよく見ていた形跡がある。特にそれを窺い知れるのは、前回の衆院選(2017年)における、解散報道後から選挙期間までの安倍首相の発信だ。今や多くの人が忘れ去ってしまったかもしれないが、当時、突如解散を打ち出した安倍氏の掲げる大義名分は「消費増税分の使途変更」だった。増税分の大半を、借金の穴埋めではなく、幼保無償化や社会保障に振り向けるというものが主な名分であった。しかし、有権者の関心は頻繁にミサイルを発射するなど緊迫する北朝鮮の情勢にあった。当時報道各社の世論調査では、衆院選にあたって重視する政策課題として、北朝鮮を念頭に「外交・安全保障」を挙げる回答が、経済や社会保障といった他の定番の回答と並び、あるいは抑えて最多に上っていた。

かくして、安倍氏が発するメッセージにも変化が見えた。当初前面に出ていた消費増税分の使途変更といったテーマ以上に、北朝鮮情勢を「国難」とした「国難突破解散」を行うとしたのだ。選挙の遊説においても、安倍氏の演説は多くの割合が北朝鮮情勢や

安全保障に関する話題に割かれた。対峙した小池都知事率いる「希望の党」は、外交・安全保障政策における意見の不統一ぶりを突かれ、かの有名な「排除」発言、そしてその後の混乱、急失速へとつながっていく。安倍政権が世論調査を重視して長期政権を維持する意思決定につながっていたことを窺わせる、数あるエピソードの1つだ。こうした世論調査の中身を安倍氏本人がよく見ていたのか、あるいは周囲で調査に通じた人が助言し、それを本人がよく聞いていたのかは分からない。だが「運と握手だけ」では長期政権は実現し得ないのは間違いない。菅氏は安倍政権で最初から最後まで官房長官という枢要ポストにいたはずだが、重要なことを継承できなかったようだ。

来る今月29日には、自民党総裁選の投開票が行われ、新しい首相が決まる。新首相は、向こう10ヶ月ほどで衆院選と参院選の2大政選挙を乗り越えることになる。長期政権となるか、かつてのように1年おきに入れ替わる短期政権に終わるかは「世論調査を軽んじるべからず」というこの教訓をどう受け止めるかに掛かっていそうだ。

「安倍路線」引き継ぐべき？ 総裁選、自民支持層に起きた異変 世論調査で浮かび上がる「転換」求める気分

withnews9/17(金) 7:00 配信



安倍晋三前首相を模したゴム製マスク＝2021年9月8日、さいたま市大宮区、上田雅文撮影＝朝日新聞
「次の首相」を事実上決めることになる自民党総裁選が9月17日にスタートしました。大きな焦点になっているのが、政権復帰してからあわせて9年近く続いた安倍晋三、菅義偉の両政権の「路線」を、各候補者が継承するのかどうか、です。今回は国会議員だけではなく党員票が、かなりものをいいます。候補者は路線継承への世論の見方が気がかりな一方で、安倍氏の党内への影響力も無視できず、難しいバランスを迫られそう――。朝日新聞社が11、12両日に行った全国世論調査(電話)で、そんな様子が浮かびました。(朝日新聞記者・磯田和昭)

安倍路線「引き継がない方がよい」58%

昨年9月、菅首相がポスト安倍に名乗りをあげた際、安倍氏の取り組みを「継承し、前に進める」としていました。そこで今回の調査では、次の首相が安倍さんや菅さんの路線を引き継ぐ方がよいかどうかと質問してみました。「引き継がない方がよい」が58%と過半数を占め、「引き継ぐ方がよい」は28%と少ない結果でした。安倍氏が退陣表明した直後の世論調査では、「引き継ぐ方がよい」45%、「引き継がない方がよい」42%と割れていました。1年たつて、安倍路線継承への否定的な見方が増えているのです。自民支持層に限ってみても、昨年は62%あった「引き継ぐ方がよい」という割合が、今回は44%と大きく減りました。ボリュームが全体の半分を占め、選挙の際はその行方が注目される無党派層でみると、「引き継ぐ方がよい」はわずか19%。「引き継がない方がよい」が64%とかなり多い状況です。新総裁になってすぐに衆院選(10月21日に任期満了)を迎える総裁選の候補者も、世論を意識するのであれば、安倍路線と距離をとらざ

るをえないといえそうです。 ◇ Q: 次の首相は、前の首相の安倍さんや菅さんの路線を引き継ぐ方がよいと思えますか。引き継がない方がよいと思えますか。 ・全体＝引き継ぐ方がよい (28%) / 引き継がない方がよい (58%) ・自民支持層＝引き継ぐ方がよい (44%) / 引き継がない方がよい (43%) ・無党派層＝引き継ぐ方がよい (19%) / 引き継がない方がよい (64%) *その他・答えないは省略。コンピューターで無作為に電話番号を作成し、固定電話と携帯電話に電話をかける RDD 方式で、9月11、12日に全国の有権者を対象に調査。固定は有権者がいると判明した1042世帯から575人(回答率55%)、携帯は有権者につながった2027件のうち902人(同44%)、計1477人の有効回答を得た。

河野氏支持の人では……

今回調査の主眼は告示前であっても、総裁選に立候補を表明したり、検討したりしている政治家のなかでだれが自民党総裁にふさわしいのか、いち早く報じることにありました。だれが「次の総裁」にふさわしいか、5人の名前を挙げて聞くことにし、調査時点では出馬を検討し、15日に不出馬を表明した石破茂・元幹事長も選択肢に含めました。結果は、河野太郎・行革担当相が33%でトップ。石破氏16%、岸田文雄・前政調会長14%、高市早苗・元総務相8%、野田聖子・幹事長代行3%と続きました。安倍路線継承への見方を、各議員への支持模様で見てみると、河野氏が次の総裁にふさわしいと思う人では、「引き継がない方がよい」が59%、岸田氏を推す人でも、54%が「引き継がない方がよい」と答えました。一方、高市氏を推す人は、「引き継ぐ方がよい」50%、「引き継がない方がよい」40%と、継承を支持する割合の方が高くなっています。高市氏は安倍氏の支援を受けています。「安倍路線」と一口に言っても、受け取る人によってそのイメージは様々かもしれません。「異次元の金融緩和」などを柱とする経済運営、「敵基地攻撃能力の保有」を視野に入れる安全保障政策、「敵と味方」を峻別する政治姿勢……といろいろあるでしょう。ただ、政治信条が近いとされる高市氏を推す人で、安倍路線継承を支持する人が多いところをみると、路線のイメージは、いわゆる「保守派ファクター」と重なっているところが多いようです。

◇ Q: 自民党総裁選が17日に告示されます。新しく選ばれる自民党総裁は事実上、次の首相になります。次の自民党総裁にはだれがふさわしいと思えますか。(択一。敬称略) ・全体＝河野太郎 (33%) / 石破茂 (16%) / 岸田文雄 (14%) / 高市早苗 (8%) / 野田聖子 (3%) ・安倍路線「引き継ぐ方がよい」＝河野太郎 (35%) / 石破茂 (9%) / 岸田文雄 (19%) / 高市早苗 (14%) / 野田聖子 (4%) ・安倍路線「引き継がない方がよい」＝河野太郎 (34%) / 石破茂 (21%) / 岸田文雄 (13%) / 高市早苗 (5%) / 野田聖子 (3%) *調査は告示前の9月11、12日。「この中にはいない」「その他・答えない」は省略。

◇ 安倍路線を「引き継がない方がよい」と答えた人では、最後まで出馬を探ったものの、結局断念した石破氏を推す割合が21%と、比較的多くを占めていました。党员の中ではこれまでも石破氏の支持はなかなかのものでした。その「石破票」がどう動くのか、総裁選の成り行きで大きな注目点です。

そろそろ「転換」求める気分も

今回の総裁選は、2012年暮れの政権復帰の後、安倍政権が憲政史上最長となり、それを引き継いだ菅政権が幕を閉じるという大きな節目の中にあります。そこで「第2次安倍政権以降の約9年間の自民党と公明党の政権は、全体としてよかったですか。よくなかったですか」と聞きました。結果は「よかったです」が49%、「よくなかった」が40%と大きく割れました。「よかったです」という人でみると、安倍路線を「引き継ぐ方がよい」が46%の一方で、「引き継がない方がよい」も39%と一定割合を占めています。自公政権を評価しつつも、安倍路線の継承に否定的な人たちにどう浸透するか。総裁選の候補者が少しでも幅広い支持を得ようとすると、それが問われることとなります。 ◇ Q: 次の首相は、前の首相の安倍さんや菅さんの路線を引き継ぐ方がよいと思えますか。引き継がない方がよいと思えますか。 ・全体＝引き継ぐ方がよい (28%) / 引き継がない方がよい (58%) ・自公政権よかったです＝引き継ぐ方がよい (46%) / 引き継がない方がよい (39%) ・よくなかった＝引き継ぐ方がよい (9%) / 引き継がない方がよい (84%) *その他・答えないは省略。

世論調査は「断トツ1位」でも、河野太郎が「小泉純一郎」にはなれない理由 「無難な選択」に落ち着く可能性も
現代ビジネス



安積 明子政治ジャーナリスト

世論調査では圧倒的な河野氏
菅内閣で内閣官房参与を務める飯島勲氏は9月16日、共同通信放送協議会運営委員会で講演し、党员・党友による地方票で最多の票を獲得した候補が総裁になることが望ましいと述べた。飯島氏は小泉純一郎元首相の秘書として長年仕え、2001年4月に誕生した小泉政権を政務秘書官として支えてきた。その小泉政権が誕生したのは、2001年の総裁選で小泉氏が県連票141票中123票を獲得したことが原因だ。その後、雪崩崩壊つように入った議員票を加えて298票を得て、155票の橋本龍太郎元首相を下して勝利した。



共同通信が9月17日と18日に党员・党友を対象に「次期総裁には誰がふさわしいか」という電話調査を行ったところ、48.6%が「河野太郎」と回答し、「岸田文雄」の18.5%、「高市早苗」の15.7%、「野田聖子」の3.3%を大きく引き離れた。

日本テレビが同日に行った世論調査でも、「河野太郎」が40%と断トツで、「岸田文雄」の21%、「高市早苗」の15%、「野田聖子」の5%を寄せ付けていない。

また毎日新聞が18日に行った世論調査でも、河野氏は有権者対象(43%)でも自民党支持層対象(50%)でも圧倒的な強さを見せている。

自民党内の情勢は…?

このように突出した河野氏の高支持率となったのは、河野氏と並んで国民に人気がある石破茂元幹事長や小泉進次郎環境大臣が河野氏支持を表明したからだと考えられる。さらにいえば、石破氏支持層や進次郎氏支持層は河野氏にアレルギーがないことがわかる。彼らは自民党に変化を求める層ともいえる。言い換えれば、安倍（そして菅）体制への批判層だ。

しかしこうした優位さをもっても、河野氏が総裁選で当選するとは限らない。党员・党友票の4割は職域団体票であり、団体の意思として投票されることが多いからだ。もっとも小泉政権を誕生させた2001年4月の総裁選をもって、「民意が総裁を誕生させた」ととらえる意見もある。

だがこれは、総裁選の直前に当時の森喜朗首相が古賀誠幹事長に命じて各都道府県票を1票から3票に増やし、あえて小泉氏当選のきっかけを作ったからだ。「90年代の証言」シリーズの「森喜朗 自民党と政権交代」（朝日新聞社）のインタビューで、森氏は「国民が『選挙がおもしろい』と思うようになったらそれでいいじゃないですか。マスコミもそうなれば乗らざるを得なくなるでしょう」と語っている。

さらに忘れてはならないのは、この時の小泉氏には「田中真紀子」という重要なパートナーがいた点だ。その巧みな弁舌で人気があった田中氏は、「変人の生みの母」と自称したように小泉政権誕生に欠かせない存在で、2人が街宣した渋谷駅前には凄まじく多数の聴衆が押し寄せた。

果たしてその役割を、石破氏や進次郎氏が果たせるのか。むしろ党内でアレルギーが多い石破氏が河野氏に付いていては、議員票を上乗せするには難しいのではないのか。



出

そして執筆現在での議員票では、河野氏は宏池会という派閥を持つ岸田氏に及んでいない。さらに岸田氏は今年の総裁選で敗北した反省を込めて、今回は万端の準備を整えた上での挑戦だ。高市氏も伸びている。一部のネット媒体の投票ではエコチェンパー現象によって断トツの強さを見せたが、それがじわじわと浸透し、前述の毎日新聞の調査では岸田氏を抑えて河野氏に次ぐ人気ぶりだ。

選挙に「勝てる顔」が望ましい

そもそもこうした「人気投票」では実体を判断することは難しい。実際に2001年の総裁選では、6月に都議選が控えていたため、東京近郊の都市部出身の総裁が望まれたという事情がある。実際に小泉総裁の下で自民党は、史上最高の55議席を獲得した。

これをもって次期衆議院選を控え、総裁は「勝てる顔」でなければならないという意見もある。しかし出遅れたために支持率が低い野田氏はさておき、3人のうちで誰が「勝てる顔」なのか。

過去の例を見ると、自民党は政権支持率17%だった森政権の下での2000年の衆議院選ですら、38議席を減らしたものの233議席を維持した。一方で総裁選不出馬を表明した菅内閣の現在の支持率は30%で、自民党の政党支持率は37.6%。野党第一党の立憲民主党の政党支持率はその7分の1程度の5.5%だ。

もっとも自民党は今年4月に行われた参議院広島県選挙区再選

挙、参議院長野県選挙区補欠選挙で野党に負け、衆議院北海道第2選挙区補欠選挙では不戦敗を選んだ。このうち2つは自民党の政治とカネ問題が原因で、「自民党にお灸をすえたい」と有権者が判断した結果といえる。

しかし政権選択選挙である衆議院選では、よほどのことがない限り、国民は政権政党以外を選択しない。2009年8月に政権交代が実現したのは、当時の民主党の政党支持率は自民党と比べても遜色なく、7月には自民党を追い抜くほどの勢いだったからに他ならない（NHKの世論調査では民主党は26.4%で、自民党は24.9%）。



立

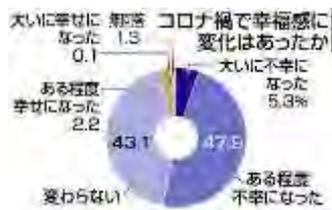
こうして考えれば、現状では政権交代の可能性はなく、自民党議員にとって総裁選で誰に票を投じるかで自分の運命が大きく変わることはない。とすれば、来年夏に予定されている参議院選に向けて、最も無難な選択がされるのではないのか。

そのために重要なのはクリーンさではないか。しかし自民党では、森友学園問題などがいまだくすぶっている状態だ。そもそも自殺者まで出した公文書毀棄問題の中心は内閣人事局の運営問題であり、これを解決しなくては終わらない。

小泉元首相がかつて述べた「自民党をぶっ壊す」に国民が潜いしれたのは、野党ではなく自民党自体に改革してもらいたいと望んだためだ。今も続くその思いに応えられる政治家こそ、次期総理総裁に相応しい。

県政世論調査 コロナ禍「不幸になった」53.2% 静岡

中日新聞 2021年9月18日 05時00分 (9月18日 05時02分更新)



ごみ削減やリサイクルのためにやっていることは何か (複数回答・上位五つ)



県は、二〇二一年度の県政世論調査結果を発表した。新型コロナウイルス禍で「不幸になった」は53.2%、理由は「楽しみ

なイベントや外出が減ったから」が最多だった。（大杉はるか）

六～七月に無作為抽出した県民三千五百人に調査票を郵送し、千九百三人から回答を得た。

コロナ禍で「大いに不幸になった」は5・3%、「ある程度不幸になった」は47・9%、「変わらない」は43・1%、「ある程度幸せになった」は2・2%、「大いに幸せになった」は0・1%だった。

幸福度（十点満点）の平均は六・四九点。幸福度は、現在、どの程度幸せかを、「とても幸せ」を十点、「とても不幸」を零点で回答。五点が22・2%で、八点が20・5%、七点が19・6%と続いた。

幸せの判断基準（複数回答）の最多は「家族と良好な関係にある」（50・1%）、次いで「生活を送るのに十分な所得や資産がある」（38・9%）、「地域に文化的な刺激や精神的な豊かさを感じる環境がある」（30・2%）などと続いた。

単年度調査は、県が力を入れる生物多様性やごみ削減の取り組みなど六項目。生物多様性については「（大切にしたいと）思う」が40・8%、「まあまあ思う」が38・7%。ごみ削減については「買い物袋を持参する」が最多（90・5%）。最少は「簡易包装に取り組む店を利用する」（5・4%）だった。

県は一九五七（昭和三十二）年度から調査を開始。継続調査項目では、暮らしに関し「苦しくなっている」が前年度より4・4ポイント減の35・9%、「楽になっっている」は同0・4ポイント減の1・3%。